

ありのままの自分を信じること



私は10年程前に佐渡裕(さどゆたか)さんのお兄さん(当時校長)とお会いしたことがあり、そのことがきっかけで少し前に『僕が大人になったら』PHP文庫という本を読みました。その中に、テレビ番組「題名のない音楽会」でおなじみの佐渡裕さんが小学校の卒業文集に「大人になったらベルリン・フィルの指揮者になりたい」と書き、それを約40年かけて実現したと書いてありました。佐渡さんはかつてフランスで生活していた時、自信とは「あ

りのままの自分を信じられること」であると苦闘しながら学んだそうです。

それまでの佐渡さんは、自信＝自分を強く見せることだと錯覚していたそうです。「偉く見せよう」「強く見せよう」という虚勢は多くの場合、自信のなさや後ろめたさの表れであることが多いと思います。とはいっても、「ありのままにしよう」と思うだけで、自然に実力が身につくわけではありません。サッカーや野球、バレーボール、いや全ての分野において活躍している人が、一朝一夕に夢をつかんだわけではないことは、もはや言うまでもないでしょう。何事もすぐには結果が出ずに、何年・何十年とかかることが多いかもしれません。それでも結果が出なくて、その道をあきらめていく人も少ないないでしょう。しかし、結果が出ずとも、夢に向かって地道に積み重ねた努力は、誰が見ずとも自分は知っています。それこそが、逆境の時、人生の勝負どころで、あきらめずにありのままの自分を信じてもう一步頑張れる原動力になることだと思います。南が丘小の子どもたちは勉強以外にも、スポーツや音楽など様々なことに挑戦していることでしょう。

今、結果が出なくて焦ることもあるかもしれませんが、でも、今、頑張っているその事実は間違いなく自分の歴史に刻み込まれています。子どもたちには佐渡裕さんのように焦らず、コツコツと地味なところで頑張れる心を持ってほしいと日々思っています。

注意する前に…

これは幼児教育に携わっている知人から聞いた話です。ある園の園児が教室に走りながら入ってきたかと思うと、そこにあったティッシュボックスからティッシュを何枚も何枚も取り出したかと思うと、教室から飛び出していったそうです。このシーンに出くわした時、私たちはどう対応するのでしょうか?「どうしたの?」と聞くのでしょうか?それとも「そんなに何枚もとらないで」と注意するのでしょうか?この時この保育士はその子についていったそうです。そうしたら、そこにはけがをしている子がいてこの子は足を水で洗ってあげたあと、ティッシュで拭いてくれていたそうです。保育士はこの子の行動をしっかりと褒めたそうです。もし、最初に注意していたならばこの子は悲しい気持ちになりましたね。